

「フラッシュバック」治療に効果か

脳卒中薬臨床研究へ

千葉大

つらい記憶が繰り返し
突然よみがえる心的外傷
後ストレス障害(PTS
D)の症状の一つ「フラ
ッシュバック」を減らす
のに脳卒中の後遺症を改
善する既存薬が役立つ可
能性が高いとして、千葉
大の研究チームが効果を
確かめる臨床研究を8月
にも始めることが、6日
大学の審査委

員会が6月中旬、臨床研
究に大筋で合意した。
東日本大震災のような
災害や虐待、事故が原因
で発症するPTSDで
は、投薬で抑うつ症状な
どは改善する場面が多い
ものの、フラッシュバッ
クには十分な効果がな
い。チームの橋本謙二教
授(神経科学)は「薬の
効果を証明した上で、世
界初の正式なフラッシュ
バック治療薬として普及
させられるよう製薬企業
に働き掛けたい」と話す。

薬は脳出血や脳梗塞後
のめまいを防ぐセロクラ
ール(一般名イフェンブ
ロジル酒石酸塩)。国内
では30年以上前から飲み
薬として使われており、
重大な副作用は報告され
ていない。

この薬の脳の興奮を抑
える作用がフラッシュバ
ックを改善する可能性が
あるとして、米子医療生
活協同組合「米子診療所」
(鳥取)や千葉大がここ
数年、性的虐待や暴力を
受けるなどしてPTSD
を発症した女性患者6人
へ試験投与。40代女性は
1日に2、3回だった発
生頻度が8週間後までに
週1〜4回に減るなど、
6人とも症状が大幅に改
善したという。

新しく実施する臨床研
究では、PTSDと診断
された13〜18歳の男女計
40人を2グループに分け
て一方にセロクラール、
もう一方に偽薬を投与す
る。グループ間のフラッ
ッシュバックの頻度や不安
症状などの改善度を比較
し、薬の効果を厳密に確
かめる。早ければ8月に
も研究を開始し、3年以
内に結果をまとめる。

フラッシュバックの治
療薬をめぐっては、一部
の薬で睡眠中に悪夢を見
る回数を減らす効果があ
るとの海外の報告が知ら
れているが、普及に結び
ついていない。